

フレイル予防の介入のループを実現するAIによる早期検出・個別化介入統合モデルの研究開発

順天堂大学 松田雅弘（2026年度～2028年度）

研究開発目的

要介護化を防ぐため、評価者によるばらつきや「判定だけで支援に繋がらない」課題を解決し、判定から運動・生活支援の提案まで一体で行えるAIシステムを開発・社会実装する。

取り組み

動作動画と簡易質問紙から、専門家の知見を組み込んでフレイルの進行タイプを識別・説明するAIを構築し、多施設での実証で精度と支援効果を検証する。

成果

- ・AI評価・測定システムの基盤構築
- ・多施設での大規模データの取得

今後の展開

- ・データ追加によりAIの精度を高め、フレイルの進行タイプを正確に見分ける仕組みを確立する。
- ・病院や施設でタイプ別の運動支援を行い効果を検証後、地域健診等で使えるアプリとして普及（社会実装）を目指す。

